

立ち帰る

反省

四旬節は自分たちの生活について反省する機会です。どんな点で足りなかったことがあるか、どんなとで人に迷惑をかけたか、反省したことを、つぎの空白に書いてください。

立ち帰る

旧約聖書では多くの預言者たちが、イスラエルの人々の中で神の言葉を伝え、人々が神に立ち帰るようにと戒めていました。しかし、多くの人々はこれらの預言者を受け入れず、むしろ迫害しました。申命記の戒めでは、「あなたの神、主のもとに立ち帰り、その声に聞き従う」よう求めています。「神に立ち帰る」ということは、「わたしは必ずあなたと共にいる」と言われる神に信頼して生きていくことなのです。

「神に立ち帰る」という言葉は、新約聖書では「か

いしん」という言葉として使われています。「かいし

ん」という言葉は、「悔い改め」、「改心」、「回心」と

いうふうになんか使われています。「悔い改め」や、

「改心」という言葉は、今のままでは神からの救いは

得られないから、心を悔い改めることによって現在

の罪の状態から抜け出すとする意味で使われています。

これに対して、「回心」は心を回すことを意味して

います。心を回すということは、自分の内に働いて

おられる神に心を向けることなのです。この場合に

は、神がいつも共にいて下さることを思い出すことに

よって、そのまま神と共に歩むことができるという

ことになります。つまり、「回心」という言葉で表さ

れていることは、人があるがままの姿で、神に受け入

れられていることなのです。

